学長室
だより

大学病院に刻み込まれた 150年間の〈先駆的な記憶〉

9月20日は、長崎大学病院の開院150周年記念日でした。1861年、オランダ人医師ポンペ先生によって、その前身「養生所」が開設されました。時は幕末。長崎の街を、坂本龍馬が高杉晋作が岩崎弥太郎が闊歩(かっぽ)していた時代です。爾来(じらい)、1945年の原子爆弾による壊滅という大きな試練を経て、今日まで150年。幾万の先達たちの汗と涙と夢が、“先駆的な記憶”として、今日の大学病院に刻み込まれているのです。今回の、東日本大震災とそれに続く原発事故による放射能汚染という大きな困難を抱えた福島県における、国際ヒバクシャ医療センターのスタッフを始めとした長崎大学病院教職員の見事な貢献ぶりは、この“先駆的な記憶”と無縁ではありません。9月20日は、この記憶に思いを馳せる絶好の機会となりました。

大学病院に限らず、長崎大学は、他の大学にはない多くの貴重な記憶を有しています。個性あふれる長崎大学。その源泉は、まさにこの大学の“先駆的な記憶”にあるのです。そして、その記憶を辿(たど)るための“よすが”が、キャンパス内のいたるところに現在も遺(のこ)されています。温故知新。折にふれて過去に思いを馳せ、この大学の個性をかみしめ、未来を想像する。素晴らしいことではありませんか。長崎大学に関わる全ての人々の特権です。長崎大学の記憶には、それだけの価値があるのです。

長崎大学長 **片峰　茂**

CONTENTS

長崎大学広報誌
［チョーホー］
Choho
Vol.37

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報Choho○号から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

特集　キャンパスの中のミュージアム	1
始動！　長大さるく「片淵キャンパス編」	13
グラバー図譜　「シマフグ」	16
温故知新　第5回　「シーボルト記念植物園」	18
インフォメーション	20
長崎大学「通」クイズ	21
編集後記	21